

鉄道のピンチに立ち向かえるパイオニア人材育成事業(和歌山県紀南地域)

事業実施主体

【共創プラットフォーム】
 鉄道のピンチに立ち向かえるパイオニア人材育成事業
 【事業主体】
 鉄道防災教育・地域学習列車「鉄学」事務局

地域課題

- 乗客減による経営危機（年間30億円の赤字）に対処するため、鉄道事業の本質的理解を踏まえて、鉄道理解・利用・活性化策を構築する力量が必要がある
- また、南海トラフ巨大地震による津波のリスクに対処するため乗客の避難力向上である

実証事業の内容

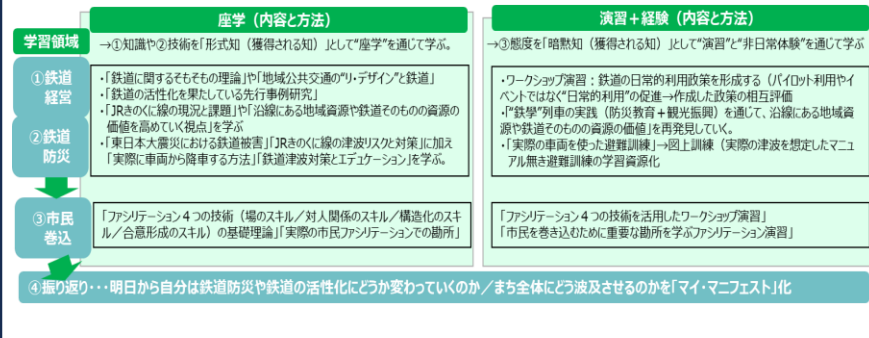
JRきのくに線をフィールドに「鉄道のピンチ（①経営難／②防災）に立ち向かえるパイオニア人材」を育成し、かつ参加学習者自身が住民のリーダーとして①・②の方法論を地域にヨコ展開していくための能力（③市民の巻き込み力＝ファシリテーション能力）を獲得するプログラムを実施。

今後の展開

- 中長期的には、大学のリカレント教育カリキュラムへ統合させることで、高い持続可能性を目指していく。
- 「地域共創」を具現化するために、地元自治体で作る「紀勢本線活性化促進協議会」等との連携・支援も目指していく。

事業実施地域・手順

- JRきのくに線（和歌山～新宮）沿線のうち南部の区間（白浜～新宮）を対象
- 主な実施地域としては和歌山県紀南地域（みなべ町より南半分・11市町村）を対象



事業スケジュール

| 時期 | 実施主体 | 内容・タスク |
|------------|-------------------|---|
| 7月～9月中旬 | 事務局＋JR西日本和歌山支社 | ・プログラムの構築や講師派遣依頼など調整を実施 |
| 9月中旬～11月中旬 | 事務局＋（事業協力を得るPR会社） | ・確定したプログラム、日程をまとめた募集案内を作成し、地元各市町村、防災関係団体、観光関係団体、教育機関（高校／中学校）に訪問配布し、参加者の派遣を依頼 ・メディア（地元新聞・業界専門誌等）を通じた募集案内を実施 |
| 11月下旬～2月中旬 | 事務局 | ・鉄道経営に関する座学と鉄道防災に関する座学の実施 ・実際の列車を使う「鉄学」列車の運行 ・鉄道の日常的利用政策を演習で作成 |
| 1月下旬 | 事務局 | ・市民巻き込みのための「ファシリテーション技術」の座学と技術を活用した演習 ・振り返りとして明日からの行動指針「マイ・マニフェスト」をまとめる |
| 2月中旬～下旬 | 事務局 | 実績報告の作成、とりまとめの実施 |